



あけましておめでとうございます

2010年 元旦



振り返ってみたときに、本年が、おかしくなりつつある世界がまともな方向に舵を切り始める年であったと感じられるようである事を祈念して

投稿のお願い

全てのものの考えは、ある事象について、筆者の定めた一つの思考領域の、一つの断面について、論理的に展開されているものであり、他の断面についての議論、少し変えた領域に於ける議論は当然成り立ち、主張も変わってきて当然です。 例えば

「坂の上の雲」がテレビで面白い。「日本海海戦は、秋山真之参謀が考案した丁字戦法により、完勝をおさめた」と、少しでも歴史に興味のある日本人は、そう刷り込まれている。しかし、『極秘 明治三十七・八年海戦史』という、海軍がまとめた全 150 巻にもおよぶ記録がある。この記録によると、「丁字戦法による完勝」は、当時の海軍が最も隠匿したかった軍機の極秘兵器（連携機雷）を隠すための幻であったようである。その結果、世論がどうコントロールされたか、そして、その幻のため、その後 40 年で日本がいかに墮落して行ったか、色々と考えさせられる。（参考：半藤一利、戸高一成著「日本海海戦 かく勝てり」）

どの様な主題でも結構です。京機会会員諸氏の、様々の切り口での寄稿を期待致します。

研究者は、意外と「検索」されている？

可知直芳

京機会学生会員 富田研究室

いろんな国や大学の研究者にインタビューをして、その動画をインターネットで配信するということをやっている。Web サイトの名前は Researcher Zukan (研究者図鑑: <http://www.zukan.tv>) といって、今までに 350 人くらいのインタビューを配信している。インタビューという口実で、いろんな研究者の人に会えるのをいいことに、半分趣味でやっている。

zukan.tv

Welcome

About zukan.tv

Research field

Affiliation

Archives

« Shiho TSUJI (1/2) with english

2009.10.16 - Vol.347 - Shiho TSUJI (2/2) with

Next: Hiroaki ISHIBE »

Vol.0347 Shiho TSUJI (2/2) with english
subscription [\[edit\]](#)

Toyota Yahagi River Institute - Researcher



Abstract:

To watch the interview with English subtitles, 1. Click the "up arrow" button on the bottom right of the video player. 2. Click the captions/subtitles menu button.

4 Themes of This Interview

1. **Current Research Theme**
Legend of the people who came to Japan from overseas in ancient time
 2. **Future Research Theme**
Is historical evidence really necessary in Legend research?
 3. **What She/He Can Offer**
 4. **What She/He Wants**
- Area**
Aichi, Japan

Research keyword

XuFu (徐福), legend, people who came to Japan from overseas in ancient time

Embed

<embed style="width:450px; height:364.5px;"

Folklore (Research field)



Vol.0347 / 2009.10.14

[Shiho TSUJI \(1/2\) with english subscription](#)

Toyota Yahagi River Institute

2 interviews ([view all](#))

表 Researcher Zukan 検索キーワード上位 20 (20094-6 月)

順位	2009 年 4 月	2009 年 5 月	2009 年 6 月
1	[不明]	[不明]	[不明]
2	[研究者名]	[研究者名]	[研究者名]
3	[研究者名)	[研究者名]	[研究者名]
4	研究者図鑑	[研究者名]	[研究者名]
5	zukan.tv	[研究者名]	[研究者名]
6	[研究者名]	[研究者名]	[研究者名]
7	[研究者名]	[研究者名]	[研究者名]
8	[研究者名]	[研究者名]	[研究者名]
9	[研究者名]	[研究者名]	[研究者名]
10	[不明]	[研究者名]	zukan.tv

先日、たまたま、Web サイトのアクセス解析なるものを見てみた。アクセス解析とは過去のアクセス履歴の統計で、これを見ると、一日に何人くらいの方がサイトを訪れているのかとか、どのインタビューが一番見られているかなどということが分かる。見ていると、なんだか人の行動を覗き見しているような気持ちになる。サイト運営側としてはサービス向上のために見てしかるべきなのだが。

そんな風に若干後ろめたさを感じつつ統計を見ていると、「検索キーワード」の結果が出てきた。これは、Google などの検索エンジンを利用して Researcher Zukan にたどり着いた人が、どういう検索キーワードを使ってやってきたかが丸わかりになる統計である。もっとも多かった検索キーワードを上から順に並べると、こんな感じであった。

個人名は個人情報保護の観点で掲載していないが、[研究者名]とあるのは、インタビューに出演した、特定の研究者の名前である。これを見ると、サイトを訪問する人のほとんどは、特定の研究分野であるとか、研究テーマではなく、「ある特定の研究者」についての情報を集めている間に Researcher Zukan を発見するようだ。

結果を見ているうちに、少し穿った味方になるが、研究者なる存在は、実は世間の人から結構「検索」されているのではと、ちょっとそんな気がした。もしかしたら皆さんも、どこかの誰かに検索されているのかもしれない。怖い世の中ですね。ちなみに、僕自身も研究者の端くれの端の方にいる存在として、インタビューに出演したことがあるが、僕を検索した人数は 1 人いた。ゼロじゃなくてよかった。

エネルギーのはなし 第 3 編 (その 4)

藤川 卓爾 (昭和 42 年卒)

出典：「火力原子力発電」第 60 巻、第 2 号、2009-2、pp.32～40

発行： 火力原子力発電技術協会

6. 仮説④：より現実的な考え方

4. の高速増殖炉も 5. の水素エネルギー社会も実現すれば素晴らしいが、そう簡単に短時間の間には実現しないとみるのがコンサーバティブな見方である。そこで、より現実的な考え方として当面は次のようにすればよいのではないかと考えられる。

- ・ 発電：石炭ガス化複合発電(IGCC)さらには石炭ガス化燃料電池複合発電(IGFC)
- ・ 運輸用液体燃料：バイオマスガス化メタノール合成

化石燃料の中では、石炭があと約 2 世紀と比較的に寿命が長いので、発電用には石炭を高効率で利用する。自動車、航空機、船舶等の運輸用の燃料は石油のような液体燃料が便利であるので、バイオマスをガス化して合成したメタノールを使用する。これによって、当面は石油が枯渇しても凌いでいくことができるのではないかと。その間に次の技術を開発すればよい。



図 11 クリーンコールパワー研究所 IGCC 実証機

IGCCの開発は、国家プロジェクトとして、各電力会社と(財)電力中央研究所が共同で推進して来た。2004年から、福島県いわき市の常磐共同火力(株)勿来発電所構内にクリーンコールパワー研究所(株)の出力25万kWの実証機(図11)の建設と試運転が行われ、2008年9月に長時間連続運転に成功した。今後、運転最適化試験、炭種変化試験、通年運転試験等を実施し、IGCCが商用機として求められる性能、耐久性、経済性等をさらに検証していく予定である^{12),13)}。

このように、IGCCの技術は既にほぼ実用化されたといえる。現在は実証機のプラント出力に対応して、燃焼温度1200℃級のガスタービンを使用しているので、プラント熱効率は42%のレベルであるが、1500℃級ガスタービン(図12)を使用した将来の大容量IGCCプラントの熱効率は50%のレベルに向上する。

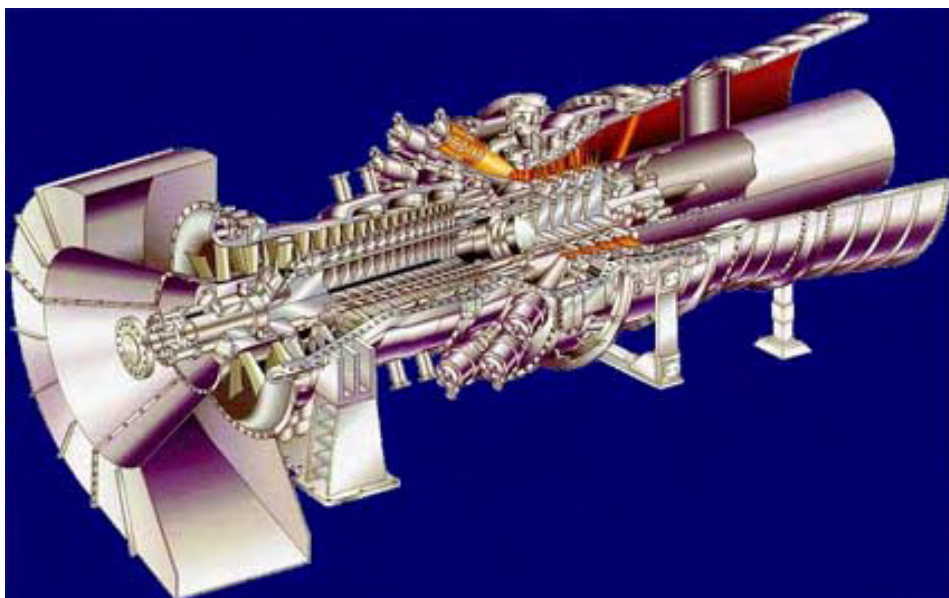


図12 1500℃級ガスタービン(提供：三菱重工業)

バイオマスガス化メタノール合成も実用化が進んでいる。

図13に長崎総合科学大学が農林水産省の委託研究として長崎県諫早市に設置した実証プラント「農林バイオマス3号機」¹⁴⁾を示す。ここでは各種のバイオマスをガス化して高カロリーガスとし、50kWのガスエンジン発電と、メタノール合成の併行生産システムの研究開発を実施中である¹⁵⁾。

バイオマス起源の燃料の特徴は、図14に示す「カーボンニュートラル」である。燃料が燃焼して発生する二酸化炭



図13 農林バイオマス3号機

[出典] 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構，長崎総合科学大学 「ガスエンジン発電とメタノール合成併行生産システム」,(2007)

素は、原料のバイオマスが成長するときに吸収するので、大気中の二酸化炭素は増減せず一定に保たれ、地球温暖化につながらない¹⁶⁾。

<参考文献>

12) クリーンコールパワー研究所(株)HP：<http://www.ccpower.co.jp/>

13) Yoshitaka Ishibashi, Osamu Shinada: "First Year Operation Results of CCP's Nakoso 250MW Air-blown IGCC Demonstration Plant", Gasification Technologies Conference 2008, Washington, D.C. (2008-8)

- 14) 独立行政法人 農業・食品産業技術総合研究機構，長崎総合科学大学：ガスエンジン発電とメタノール合成併行生産システム，(2007)
- 15) 藤川 卓爾，坂井 正康，村上 信明，谷野 忠和：長崎総合科学大学の再生可能エネルギー利用技術開発，火力原子力発電，第 59 巻，第 9 号，pp.12-17，(2008-9)
- 16) 坂井 正康：バイオマスが拓く 21 世紀エネルギー，森北出版，(1998-11)



図 14 カーボンニュートラル

—— 京機短信への寄稿、 宜しくお願い申し上げます ——

【要領】

宛先は京機会の e-mail: jimukyoku@keikikai.jp です。

原稿は、割付を考慮することなく、適当に書いてください。 MSワードで書いて頂いても結構ですし、テキストファイルと図や写真を別のファイルとして送って頂いても結構です。 割付等、掲載用の後処理は編集者が勝手に行います。

宜しくお願い致します。

平成 22 年度 支部総会・新年会のご案内

平成 22 年度も下記の通り、総会・新年会を開催いたします。
多数のご参加をお待ち申し上げます。

日 時	平成 22 年 1 月 16 日(土)
会 場	ホテルグランヴィア大阪 (20F 孔雀の間) 〒530-0001 大阪市北区梅田 3 丁目 1 番 1 号 TEL : 06-6344-1235(代) JR 大阪駅・中央改札口右手すぐ
時 間	総 会 : 17:00 (20F 孔雀の間) 新年会 : 17:45 (20F 鳳凰の間)
懇親会費	無料 (平成 21 年 4 月新入社員の会員) 3,000 円(学生・大学院生) 5,000 円(平成 12 年以降学部卒業の会員) 10,000 円(平成 11 年以前学部卒業の会員)
当日は、15 : 00～17 : 00 より 同会場 (20F 孔雀の間) にて、第二世紀事業会リカレント講演会を開催いたします。併せてご参加ください。 テーマ : リレー講義 「エンジニアリングトライボロジー入門 : 摩擦・摩耗・潤滑の基礎理論」 講 師 : 森 淳暢氏 (元関西大学教授) 平山朋子氏 (同志社大学 理工学部 准教授) 人 類は生活の中で常に摩擦・摩耗現象と向き合ってきた。役に立つ摩擦・摩耗、邪魔になる摩擦・摩耗。法則性と現象のメカニズムを追い求め、摩擦・摩耗を自由に操る潤滑技術の獲得を目指して、今もなお、飽くなき闘いを続けている。摩擦の低減は省エネに、摩耗の低減は省資源につながり、個々の改善は僅かでも、全 世界の全産業で積分すれば、莫大なエコ対策に通じる。このような認識に立って、摩擦・摩耗・潤滑に関わる諸課題への挑戦は、トライボロジーという新概念の もと、新たな展開を見せて久しい。現在では、原子・分子レベルの挙動から現象を解き明かそうという段階に差しかかっているが、多くの産業を支える諸技術に あってはマクロなレベルでの成果が期待されるため、ミクロな成果をマクロな技術に結びつけるメゾ領域の取り組みの重要性が増している。本講演の前半においては、マクロレベルでの成果のベーシックな部分を森が紹介し、ミクロレベルでの最近の成果の一部を平山が紹介する。	
申し込み	締切 12 月 20 日 (日)

関東支部

第10回 総会・新年会のご案内

【案内図】



JR品川駅下車 高輪口から徒歩10分

	平成 22 年 1 月 23 日(土) 16 : 00~19:30 (15 : 45 より受付)
会 場	日立金属 高輪和彊館 【 MAP 】 〒108-0074 東京都港区高輪 4-10-56 TEL 03-3443-1717 JR 品川駅下車 高輪口から徒歩 10 分
内 容	総会(講演を含む) 16 : 00~17 : 30 講演 : 「パズルを楽しむ」 矢部 寛氏 (S35 卒 京都大学名誉教授) 懇親会 : 17 : 30~19:30
会 費	8,000 円(1992 年以前に学部卒業の方) 5,000 円(1993 年以降に学部卒業の方) (当日会場でお支払い下さい)

当日は、14:00～15:45 に同会場にて、第二世紀事業会リカレント講演会を開催いたします。
併せてご参加ください。

テーマ:「生体組織・細胞の力学構造と機能的適応:力学とバイオ」

講師：安達泰治氏（京都大学工学研究科機械理工学専攻准教授）

生体組織・細胞の構造・機能関係の適応的なダイナミクスについて、力学的な観点から進めているシステムバイオメカニクス研究を紹介する。特に「力学的階層性」および「力学とバイオの相互作用」に着目し、骨の形態と機能的適応との関連、および、アクチン細胞骨格の動的機能における力学の役割に関する最新の研究例をわかりやすく紹介する。

このようなバイオに対する力学的アプローチは、細胞・分子レベルにおいて重要となるであろう「バイオとナノの融合」研究への展開を目指すものであり、今後、機械工学が重要な役割を果たす一つの分野として、その発展が大いに期待される。

申し込み	http://www.keikikai.jp/shibu/kantou/gyouji.html
------	---

平成 22 年度京機会春季大会・総会

日時： 平成 22 年 4 月 17 日(土) 14:30【総会】～ 19:30

会場： ホテルグランビア岡山



後楽園と烏城

I. 特別企画

A コース： JFE 西日本製鉄所(倉敷地区)見学 (」R 新倉敷駅集合)～ 14:00

B コース： 岡山後楽園散策 (12:00 ホテルグランビア岡山集合)～ 14:00

(中国・四国支部総会： 14:05 ～ 14:20)

II. 総会 14:30 ～ 15:30

III. 技術講演会 15:40 ～ 16:30 ～ 17:20

1. 井上恵太 氏 (元トヨタ取締役&コンポン研究所長)

「二宮尊徳の現代的意義について」

2. 井上達雄 氏 (京大名誉教授、現福山大学工学部教授)

「たたらと日本刀の科学」

IV. 懇親会 17:30 ～ 19:30

あと、有志で 2 次会(ホテルグランビア 19 階 アプローチ)

自分の時間をゆっくりと過ごす場所と時間を提供します。参加者にはお互いの名簿と名札をお渡ししますので、声をかけあって三々五々情報交換の円座を囲ってもよし、庭園を散策されても、また読書をされたり、勉学、研究等の構想を練られるのも良いと思います。また、第2会合室では自己紹介とテーマ歓談、簡単なストレッチ体操等を行いますので、自由にご参加下さい。（参加費無料）

1月の清風荘学生サロン（<http://www.keikikai.jp/salon/seihuso.pdf>）は、平成22年1月8日（金）に開催いたします。

今回の歓談テーマは、「留年！」です。

ふるってご参加下さい。

参加希望者は開催日前日までに、松田優子 yuko118@iic.kyoto-u.ac.jp 宛、メールでご連絡下さい。メールには氏名、所属、連絡先と共に、自分を紹介する2, 3行の単文をご記入下さい。参加者名簿（氏名・所属・紹介文のみ記入）は当日お配りします。



清風荘サロン会場

片井修教授退官記念行事のご案内

<http://www.symbalab.sys.i.kyoto-u.ac.jp/taikan/>

退官最終講義 2010年3月27日（土）14:00～

知恩院（京都市東山区林下町400）雪香殿

懇親会（兼 OB 会） 2010年3月27日（土）18:00～

ウエスティン都ホテル（京都市東山区三条蹴上）二階：山城の間

I. 2010 年中国経済の行方

http://www.jftc.or.jp/shoshaeye/contribute/contrib2009_12.pdf

- 2010 年中国経済の行方と新たな日中経済関係の構築（座談会） 越智幹文

http://www.jftc.or.jp/shoshaeye/contribute/contrib2009_12a.pdf

日本政策金融公庫 国際協力銀行（JBIC） 北京駐在首席代表 川?一彦

双日 執行役員中国総代表 桑山信雄

伊藤忠商事 常務執行役員中国総代表 佐々木伸彦

日本貿易振興機構（JETRO） 北京センター所長 清水?博

丸紅 常務執行役員中国総代表 小川真二郎

三井物産 常務執行役員中国総代表 中国日本商会会長

- 2010 年の中国経済 - その行方と課題 柯 隆 富士通総研経済研 主席研究員

http://www.jftc.or.jp/shoshaeye/contribute/contrib2009_12b.pdf

- 蝶理（天津）有限公司赤井訓児総経理に聞く 赤井訓児 蝶理（天津）総経理

<http://www.jftc.or.jp/shoshaeye/contribute/contrib200912c.pdf>

- 人材が支える中国経済の発展 宮内雄史 東京大学北京代表所 所長

http://www.jftc.or.jp/shoshaeye/contribute/contrib2009_12d.pdf

- 住金物産の最近の中国事業活動 渋谷龍一 住金物産北京事務所 所長

http://www.jftc.or.jp/shoshaeye/contribute/contrib2009_12e.pdf

- 不透明感の中でも旺盛な消費意欲と大きな成長可能性を残すインフラ整備需要

大西康雄 日本貿易振興機構 上海センター 所長

http://www.jftc.or.jp/shoshaeye/contribute/contrib2009_12f.pdf

- 上海経済を支える旺盛な消費と優秀な人材 長阪九万太 双日（上海）総経理

http://www.jftc.or.jp/shoshaeye/contribute/contrib2009_12g.pdf

- 上海交通事情（海外事情） 豊田雅孝 阪和貿易（上海）董事長・総経理

<http://www.jftc.or.jp/shoshaeye/overseas/os2009/os200912.pdf>

- 最近の中国の通商・経済協力関係の動向（貿易・投資関係情報） 日本貿易会

http://www.jftc.or.jp/shoshaeye/trade_invest/200912b.pdf

II. NEDO 海外レポート 1056 号 平成 21 年 12 月 2 日

<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/1056/index.html>

全文 (9888KB)

<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/1056/1056.pdf>

1 国際エネルギー機関におけるヒートポンプ技術の取り組み

<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/1056/1056-01.pdf>

2 ヒートポンプ・バロメータ 2009 年 (EU) (458KB)

<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/1056/1056-02.pdf>

3 エネルギー需給の現状と 2030 年の予測 (3003KB)

<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/1056/1056-03.pdf>

4 環境に優しい車(Green Car)の性能比較 (60KB)

<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/1056/1056-04.pdf>

5 環境に負担をかけない持続可能な輸送システム(EU) (75KB)

<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/1056/1056-05.pdf>

6 EU が輸送に関する研究事業の公募を開始 (26KB)

<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/1056/1056-06.pdf>

7 オバマ政権が省エネ建築物の新たな取組みを開始 (米国) (29KB)

<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/1056/1056-07.pdf>

8 DOE が固体照明ゲートウェイ実証プロジェクトの結果を公表(米国)

<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/1056/1056-08.pdf>

9 ULCOS 極低炭素排出製鉄 (EU) (2544KB)

<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/1056/1056-09.pdf>

10 NEDO における ASEAN への省エネ支援状況 (アジア) (34KB)

<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/1056/1056-10.pdf>

11 EERE の 2010 年度予算は 3%増加、22 億 4,000 万ドルに (米国) (24KB)

<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/1056/1056-11.pdf>

12 米国洋上風力発電協会が開発方針を提示 (24KB)

<http://www.nedo.go.jp/kankobutsu/report/1056/1056-12.pdf>

III. 環境

1. 米国における「クリーンエネルギー経済」構築に向けての動き (その 3) ～太陽電池普及への政府支援と、本格化する太陽電池製造の国際競争～

<https://reports.us.bk.mufg.jp/portal/binary/>

[com.epicentric.contentmanagement.servlet.ContentDeliveryServlet/Internet/Reports/RD/Public/Production/BTM-WDCINFO%202009-No.045.pdf](https://reports.us.bk.mufg.jp/portal/binary/com.epicentric.contentmanagement.servlet.ContentDeliveryServlet/Internet/Reports/RD/Public/Production/BTM-WDCINFO%202009-No.045.pdf)

今回のワシントン情報では前回に引き続き、米国における太陽電池産業の動向、同産業を含む再生可能エネルギー推進に向けての政府の取り組みについて報告する。

2. 米国における「クリーンエネルギー経済」構築に向けての動き (その 2) ～太陽電池普及に向けて動き出す米国～

<https://reports.us.bk.mufg.jp/portal/binary/com.epicentric>

[.contentmanagement.servlet.ContentDeliveryServlet/Internet/Reports/RD/Public/Production/BTM-WDCINFO%202009-No.044.pdf](https://reports.us.bk.mufg.jp/portal/binary/com.epicentric.contentmanagement.servlet.ContentDeliveryServlet/Internet/Reports/RD/Public/Production/BTM-WDCINFO%202009-No.044.pdf)

米国では、太陽電池パネルの価格・設置コストが年々安くなってきている。近年、再生可能エネルギーに関わる様々な政府補助が提供されるようになったことに伴い、全米において設置されている太陽電池パネルの台数は、ここ数年で一気に増加した。不況と金融危機に伴う消費活動の低迷と信用収縮から、太陽電池パネルの販売量伸

びは幾分抑制されたものの、連邦・州政府、地方自治体の景気刺激策、再生可能エネルギーに対する様々な税制優遇措置などから、今年も堅調な成長が予想されている。

太陽エネルギー利用には主に、太陽電池パネル（PV）を用いた太陽光発電、太陽熱発電、太陽熱温水器があるが、今回のワシントン情報では Obama 政権が目指すハイテク送電網（スマートグリッド）の構築と関連して、全米で普及しつつある太陽電池パネルの設置状況について報告する。

3. 米国における「クリーンエネルギー経済」構築に向けての動き（その1） ～政権のスマートグリッド戦略と再生利用可能エネルギーの推進～

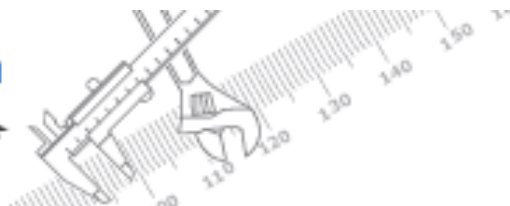
<https://reports.us.bk.mufg.jp/portal/binary/>

com.epicentric.contentmanagement.servlet.ContentDeliveryServlet/Internet/Reports/RD/Public/Production/BTM-WDCINFO%202009-No.041.pdf



Student Formula SAE Competition of JAPAN

全日本 学生フォーミュラ大会



報告

あけましておめでとうございます。 昨年は1年間に渡って私たち京都大学フォーミュラプロジェクトKARTの活動に数多くの有形、無形のご支援をいただきまして、誠にありがとうございました。 本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、今回は「年始からの活動予定」と、昨年末に発表されました「第8回全日本学生フォーミュラ大会開催概要」についてお伝えしたいと思います。

〕 年始からのスケジュール

昨年末にフレームおよびブラケットの溶接が完了しました。今年最初に取り掛かる作業はフレームをジグから外すことになります。私たちの車両の特徴の1つであるアルミフレームには、熱ひずみの影響が大きいという欠点が存在します。そこで、年末年始の休暇を活かしてフレームをジグから1週間ほど外さず置くことで、溶接後のひずみの影響を最小限に抑えるようにしました。 また別途製作していた足回りの

パーツもすでに仕上げ段階に入っています。これらが完成し次第、順次組み付け工程に入る予定で、近々「自立」したYJ-R08の姿をお見せできるかと思います。

また、現在足回り関連パーツと並行してエンジン回りのパーツも製作しております。中には既に組立てを待つのみという段階に達しているパーツも少なからずあります。



試験期間に入りますと活動は一時中断とせざるを得ないので、それまでには自立を完了させます。さらに、後期試験終了後はエンジン回りのパーツ(燃料、吸排気、潤滑、冷却、電装)の製作を推し進め、搭載していきます。

さて、注目のシェイクダウン予定日です。現在、すべての作業が例年より3ヶ月以上先行しています。このままのペースで製作を続けて、シェイクダウンを3月21日に行う予定です。

〕 第8回大会開催概要発表のお知らせ

さて、中にはご存じの方もいらっしゃるかもしれませんが、今年度大会の開催概要が昨年末に発表されました。

◎ 第8回全日本学生フォーミュラ大会

開催日:2010年9月7日(火)～11日(土)

会場:エコパ(小笠山総合運動公園・静岡県)

5日間にわたって熱い戦いが繰り広げられます。こここそ私たちが昨年の雪辱を果たす場所です。

大会は例年通り、デザイン(設計)、コスト、プレゼンテーションの静的審査とアクセラレーション(加速)、スキッドパッド(旋回)、オートクロス(テクニカルコース走行)、エンデュランス(耐久走行)の動的審査によって争われます。詳しくは、自動車技術会の全日本学生フォーミュラ大会のオフィシャルホームページ(<http://www.jsae.or.jp/formula/jp/>)をご覧ください。

私たちの1年の成果をご覧頂ける機会ですので、お時間がありましたらぜひ会場まで足をお運びください。